

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

新外来化学療法センターが7月1日にオープン



新外来化学療法センター 開設にあたって

愛知県がんセンター中央病院
薬物療法部部长
同 外来化学療法センター長

室 圭

6月27日(木)、中央病院国際医学交流センターメインホールにて、新外来化学療法センター開所式が開催されました。当日は、愛知県議会議長、名古屋市長、県医師会会長、名大・名市大院長はじめ自治体の長、県議会議員など多くの来賓の臨席を賜りました。式は、主催者を代表して大村知事のあいさつ、その後久保田県議会議長、河村市長、柵木会長がそれぞれ順にお祝いのご挨拶をされました。室がスライドによる新外来化学療法センターの概要を説明しました。その後、新外来化学療法センターへ移動し、テープカットが行われました。新設された化学療法センター棟は、2階に外来化学療法センター、1階に臨床試験・治験に関係する部署と各種研修セミナー室、地下1階には薬剤のミキシング（薬剤調整）を行うための設備等が配置されました。これらはまさにこれからの愛知県がんセンター中央病院が発展していくための象徴的な建物として



中庭に面した治療スペース



セレモニーでのテープカット

機能させていくことが望まれます。私はじめ当院の医療従事者は、この立派な建物に恥じぬよう、意気に感じ、気概を持って日々の診療に努めていきたいと考えております。

患者さんにおかれましては、今まで病床数不足のため長時間待たされたり、決して良いとは言えない環境下で治療を受けたりせざるを得ない苦痛を余儀なくされておりました。この新外来化学療法センターは、中庭にはグリーンを配置し自然光の入る明るいフロアで、木の温もり溢れるゆとりある空間に、ベッドとチェア併せて60床の国内最大規模の病床数を有しております。また、医療面でもアメニティーの面でも最新かつ快適な設備を整えております。2013年7月1日から運用を開始し、専任の医師、看護師、薬剤師などのがん治療の専門スタッフがチームを作って、今まで通り、否、今まで以上に、安全で質の高い治療を行っていきます。

これからのがん薬物療法（化学療法）はますます外来治療へと移行していくことが予想され、また、昨今の医療技術や薬剤開発の進歩によりさらに高度化・専門化することが予想されます。このような時代に即して、安全で適切な治療を患者さんに提供できるように、病院全体を挙げて努力していきたいと思っております。今後とも皆さまのご理解とご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

50周年特別企画 ～がんセンター今昔～

第1回

愛知県がんセンターは来年、設立50周年を迎えます。この節目にあたり、センターOBの先生方に在職当時のエピソードとセンターのこれからについて語っていただきます。第1回は高橋利忠名誉総長です。

昭和53年(1978年)に病理学第二部室長(西塚泰章部長)に採用されましたが、研究所で実験見習いを始めたのは、センターが設立された2年後の昭和41年のことで、当時名古屋大学の院生でした。それ以降留学を挟んで計4年間、ウイルス部の吉田孝人室長をはじめ多くの先生方にご指導を賜りましたが、この間の研修生としての貴重な体験が、その後の研究活動の大きな糧となりました。そんな訳で、センターには平成19年の退職まで、実質33年間の長きに亘りお世話になりました。

この間を振り返ってみますと、私自身の貢献度は極めて低いのですが、センター全体の活動は国内外で高く評価されており、一昨年、田島和雄研究所長の下、センターとしては6度目の日本癌学会を開催できましたことは、その反映の一つと思われれます。

ところで、かつてがんの研究や診療は当センター等限られた施設で進められてきましたが、今や多くの大学や病院でも活発に行われるようになりました。そのような状況の中でも、当センターの存在意義を県民にご理解いただくためには、病院と研究所が併設されている数少ない施設としての利点を生かし、質の高い研究・診療活動を展開することにより、がん情報発信基地としての役割を果たしていく必要があると思います。



愛知県がんセンター名誉総長

高橋 利忠

高橋利忠名誉総長が
瑞宝小綬章を受章しました。

高橋利忠名誉総長が平成25年春の叙勲にて瑞宝小綬章を受章しました。瑞宝小綬章は公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与される勲章です。



この写真は、中日新聞社の許諾を得て転載しています

組織変更のお知らせ

がんセンター中央病院におきましては、より安全な医療の提供、治験への一層の取組みや経営改善の推進などを図るため、組織の見直しを行いました。

医療事故を未然に防止し、患者さんに安全な医療を提供するため、医療安全管理部門は大変重要な役割を担います。これまでは看護副部長と感染管理認定看護師が専従で行っていましたが、重大な事故が起きた際の迅速な対応が困難なこと、職員への持続的な教育・指導や安全対策の一層の推進、また、感染管理や医療機器の安全管理についてもより一層の充実した体制が求められていることから、医療安全管理室、感染対策室及び医療機器管理室からなる医療安全管理部を設けました。

また、がん治療の中核施設として、治験、臨床試験の実施は重要な使命でありますので、CRCの定数を増員し、治験支援室、臨床試験室からなる臨床試験部を設置しました。

なお、医師・看護師の不足、医療保険財政の逼迫による国の医療費の抑制政策など、自治体病院といえども、経営の効率化、改善に取り組んでいく必要があります。また、将来にわたって、県のみならず日本をリードするがんセンターとして役割を果たしていけるような経営戦略を立てていくことも求められます。そのため、新たに経営戦略室を設置し、取り組んでいくこととしました。

このほか、電子カルテの導入による、より一層の適切な診療情報管理などのための医療情報管理部の設置、新たな外来化学療法センター施設を整備したことによる独立した組織の設置を行いました。



医療安全管理部スタッフ一同

センター探訪 ①

治験支援室

愛知県がんセンターを支える日頃目立ちにくい部署、縁の下の力持ちを紹介します。第1回は治験支援室です。



中はこのようになっています！

平成25年7月に新築オープンした外来化学療法センター棟1階の一番奥に治験支援室があります。

そこでは、院内CRC（臨床試験コーディネーター）と事務局員、業務委託会社のCRCなど総勢約25人のメンバーが働いています。

ところで、皆さんが使っている薬はどうやって開発されるかご存知ですか？

新しい薬が皆さんに使われるようになるには、まず効果が期待できる「薬の候補」について動物を用いて試験を行います。充分検討された後、少数の患者さんに使用していただき、効果と副作用を確認します。副作用が少なく効果が有りそうだとすると、もう少し多くの患者さんに使用していただき更にデータを集めます。これらの過程を臨床試験といいますが、その中でも国（厚生労働省）に対して薬として承認申請を行うための試験を「治験（ちけん）」と言います。

治験は法律や指針で決められた厳しい基準に従って倫理的・科学的に行われています。また、院内の審査委員会で倫理性、科学性をチェックし、問題が無いことを確認しています。このようにして集められた患者さんの貴重な臨床データを国が審査をして、承認されたものだけが薬として皆さんのお手元に届くのです。

当院は抗がん剤分野では国内でもトップクラスの実績（平成24年度131件）があり、その中から新しい薬の開発に結び付いた治験がたくさんあります。

CRCはその名のごとく治験を依頼する製薬会社と、医師と、患者さんとの間の調整役（コーディネーター）です。患者さんが安心して治験に参加出来るように、安全に治験が進められるように、常に気を配っている縁の下の力持ちです。

当院の治験支援室は、患者さんに新しい治療をお届けするために、治験が円滑に行われるよう、CRC、事務局員ともども少ない人数で日夜努力をしています。



製薬会社の担当者が治験が適正に進んでいるかモニタリングするブースです。



パソコンで製薬会社に治験データの報告をしており、まるでオフィスのような様子です。

平成25年度 愛知県がんセンター公開講座のお知らせ

最新のがん情報をわかりやすくお伝えします。ぜひご参加ください。

回	開催日時	申込	テーマ (講師)	
1	平成25年6月23日(日) (愛知芸術文化センター)	14:00 ～16:00 (開場 13:30)	不要	講演「これからのがん化学療法 ～外来治療の時代～」 ① もっと知ろう 外来化学療法 (薬物療法部部长:室圭) ② がん化学療法で薬剤師ができること (薬剤部 (薬剤師):松崎雅英) ③ 患者さんが願う暮らしと外来化学療法 (看護部 (がん化学療法看護認定看護師):小原真紀子)
2	平成25年7月6日(土) (がんセンター尾張診療所)	10:00 ～11:30 (受付 9:30)	事前申込 定員100名 (先着)	講演「自分で守ろう、自分のおっぱい」 ① こんな症状があったら、専門医へ! ～視触診のポイント～ (乳腺科非常勤医師:小川弘俊) ② 触ってみよう、乳房のしこり! ～模型で実体験～ (看護科主任:渡邊陽子) ③ 受けよう、乳がん検診! ～乳がん診断の最前線～ (乳腺科非常勤医師:権藤なおみ) ④ ここまでできる、乳房再建! ～乳房再建の最前線～ (尾張診療所長 兼 乳腺科部 医長:堀尾章代)
3	平成25年7月28日(日) (愛知芸術文化センター)	14:00 ～16:00 (開場 13:30)	不要	講演「がん診療における放射線治療の役割」 ① 陽子線治療の現状と展望 (名古屋陽子線治療センター陽子線治療科部長:荻野浩幸) ② 最新の放射線治療 (放射線治療部医長:立花弘之) ③ 治療開始までの流れと実際 (看護部 (がん放射線療法看護認定看護師) 久保知)
4	平成25年8月2日(金) (がんセンター研究所)	9:00 ～17:00	事前申込 定員16名	高校生向け 基礎実験体験講座 Summer Seminar 2013 「DNAで体質を知ろう ～GがAになると赤くなる!～」 ※応募受付を終了しました。
5	がん征圧月間 【がん征圧講演会】 平成25年9月1日(日) (中央病院 国際医学交流センター)	14:00 ～16:40 (開場 13:00)	不要	講演「がん研究と治療の最前線」 ① ウイルスとがん～発見の歴史と発がんへの関与～ (腫瘍ウイルス学部部长:鶴見達也) ② 上咽頭 (のど) がんについて (副院長兼頭頸部外科部長:長谷川泰久) ③ 大腸がん研究の現在と未来～基礎研究からがん治療薬の創製へ～ (分子病態学部部长:青木正博) ④ 大腸がん化学療法の最近の進歩～何が違って何が変わらないのか～ (薬物療法部部长:室圭)
	・研究所紹介	12:00 ～17:00	不要	パネル展示 「研究所の挑戦:がんの本態解明からがん克服へ」 研究所ツアー 「研究所の雰囲気を感じてみよう」
6	平成25年9月7日(土) (岡崎げんき館)	14:00 ～16:00 (開場 13:30)	不要	講演「がん医療の最前線 - 予防から診断・治療まで」 ① 最新のがん放射線治療 (放射線科部専門員:内山薫) ② 乳がん診療の最新情報 (乳腺科部部长:村田透) ③ 肺がんの診断と治療 (呼吸器内科部部长:奥野元保) ④ がん患者と家族が心がける感染防止 (看護部主任:和田美佳)
7	平成25年11月24日(日) (愛知芸術文化センター)	14:00 ～16:00 (開場 13:30)	不要	講演「がんに対する低侵襲手術 ～手術による傷を小さくすることで体の負担を減らす努力～」 ① 呼吸器外科学の進歩～肺がん・縦隔腫瘍に対する胸腔鏡手術～ (呼吸器外科部部长:坂尾幸則) ② きずの小さい、からだに優しい胃がん・消化器がん腹腔鏡手術 (消化器外科部医長:三澤一成) ③ 泌尿器科領域における、低侵襲手術としての腹腔鏡手術、ミニマム創手術の実際 (泌尿器科部 医長:曾我倫久人)
8	平成26年2月23日(日) (ウインクあいち)	14:00 ～16:00 (開場 13:30)	不要	講演「肺がんについて学ぼう ～予防から治療まで～」 調整中
9	平成26年3月1日(土) (岡崎げんき館)	14:00 ～16:00 (開場 13:30)	不要	講演「がん医療の最前線 - 予防から診断・治療まで」 ① 大腸がんの治療 (地域医療支援部部长:松井隆則) ② 食道がんの診断と治療 (消化器内科部医長:近藤真也) ③ がん治療と整形外科・リハビリテーション (整形外科部部长:山田健志) ④ がんの痛みのコントロール (看護部主任:池田裕美)

【問い合わせ先】

愛知県がんセンター 運用部管理課 公開講座係

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 TEL (代表) 052-762-6111 (内線2233)

FAX 052-764-2963 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

※第6回 9月7日(土) 及び第9回 3月1日(土) 開催の公開講座 (岡崎げんき館) については、下記へお問い合わせください。

愛知県がんセンター 愛知病院 事務部総務グループ 公開講座係

〒444-0011 岡崎市欠町字栗宿18 TEL (代表) 0564-21-6251 (内線2503)

FAX 0564-21-6467 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/aichi-hospital/>

がんをゲノム (遺伝子) 異常としてとらえる

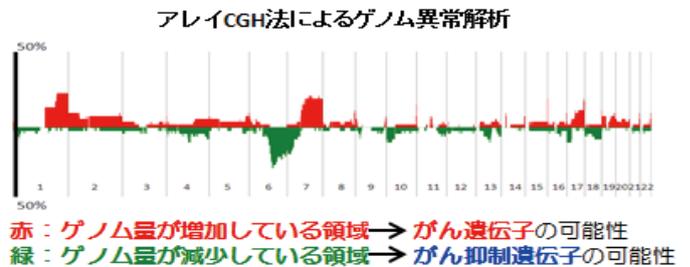
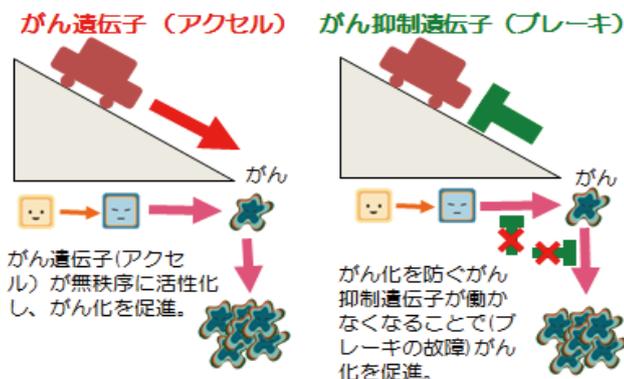
研究所 ～遺伝子医療研究部～



遺伝子医療研究部長

瀬戸 加大

遺伝子医療研究部は、がんセンター中央病院・血液細胞療法部（木下朝博部長）との連携のもとに、血液悪性腫瘍（主に白血病と悪性リンパ腫）の病因・病態の解明とその臨床応用をめざしています。白血病や悪性リンパ腫は、遺伝子の異常で発症します。遺伝子はゲノム（染色体）に組み込まれているので、ゲノムの異常を調べることで、遺伝子の異常（特に増幅・欠失）がわかるのです。がん化に関わる遺伝子には大別して2種類、つまりがん化を促進する「がん遺伝子」と、がん化を抑制する「がん抑制遺伝子」とがあります。各々アクセルとブレーキに例えられます。がん遺伝子の増幅（量が増える・アクセルが踏まれる）や、がん抑制遺伝子の欠失（量が減る・ブレーキの故障）により、がん化に向かって加速するのです。こうした遺伝子の異常は、アレイCGH法などで調べます。

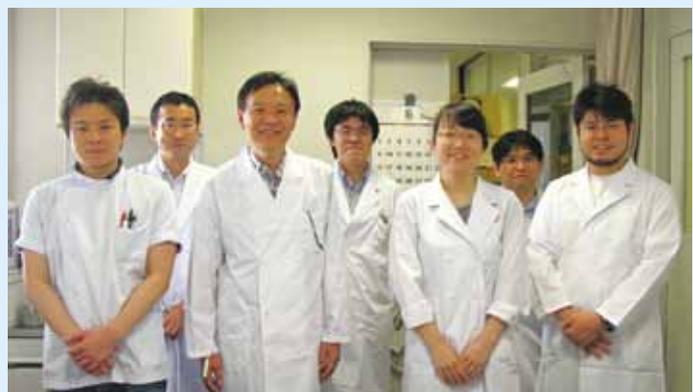


遺伝子医療研究部では、こうした「遺伝子異常」と、「白血病や悪性リンパ腫の発症や、進展、治療抵抗性など」との関係性を明らかにすることを目標に研究しています。遺伝子異常を見出し、その遺伝子異常がどのように「がん化」に関与するのかを明らかにすることで、診断や治療に役立つ情報が得られるようになることが期待されます。病院との密接な関係を生かし、研究成果を臨床に還元できるよう、研究を行っています。

研究員の紹介

研究所 ～発がん制御研究部～

細胞の増殖サイクル（細胞周期）やその監視システム（チェックポイント）を制御する遺伝子群の異常はがん化に強く影響を及ぼします。そこで発がん制御研究部では、細胞周期・チェックポイントを制御する仕組みを明らかにすることを目指しています。我々は、「どのようにしてがんを包括的に理解するのか？」という問いをいつも心にとめて研究を行い、がんが持つ弱点を攻撃する新しい抗がん剤の開発に寄与したいと考えています。



前列左から：笠原広介研究員、稲垣昌樹部長、江良沙穂リサーチレジデント、猪子誠人主任研究員、
 後列左から：井澤一郎室長、稲葉弘哲リサーチレジデント、後藤英仁室長

腫瘍の分子生物学的な特性を用いた病理診断

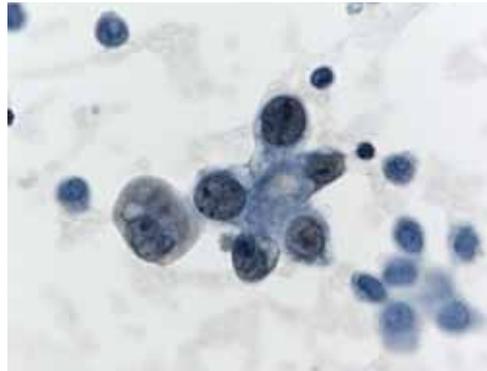
中央病院 ～遺伝子病理診断部～

現在の医療がエビデンスをもとにした治療に変遷しているように、現在の病理診断も変わりつつあります。これまでは、古典的な形態学に頼っていましたが、さまざまな分子生物学的な知見をもとに診断をするようになってきています。たとえば、原発不明がんの診断にはさまざまな臓器特異的発現分子の検索をすることにより、その原発巣の同定を行なっています。また、組織型の詳しい同定に遺伝子変異を参考にする場合も少なくありません。



ALK陽性肺癌における不応性遺伝子変化

ALK遺伝子転座に加えて、遺伝子増幅が認められるため、ALK阻害剤に変えて別の抗癌剤を用いる必要があることがわかった。



原発不明がんの腹水免疫組織化学染色

HNF1βが陽性であることから、卵巣明細胞癌であることが判明した。



遺伝子病理診断部長

谷田部 恭

特に、わたしたち遺伝子病理診断部はその名前に遺伝子と付いているように、全国でも先駆けて遺伝子診断を実地診断に取り入れ、数々の成果を上げています。直接患者さんとは接しないものの、腫瘍診断の要として全診療科と協力して最善の治療の推進に務めています。

診療医の紹介

中央病院 ～放射線診断・IVR (アイブイアール) 部～

紹介状の宛先は「消化器科」と書いてあるのに、案内された先は「放射線診断・IVR部」。なにかの間違い？聞きなれない名前に戸惑うかもしれませんが、みなさんが放射線診断・IVRに案内されたのは間違いではありません。私たちは、肝腫瘍を中心とした診療を行なっていて、肝臓の腫瘍で紹介された患者さんは、まず放射線診断・IVR部に案内されます。肝臓にできる腫瘍には良^性から悪^性まで多くの種類がありますので、まず前の部分で診断を行います。それが肝臓がんであれば、IVRと呼ばれる後ろの部分で治療の役割です。

名前が覚えにくければ、「放診」でいいですよ(^o^)



左から山浦、加藤、稲葉、佐藤、川田、鹿島、村田

指差し呼称で安全確認

中央病院 ～看護部～



副院長兼看護部長

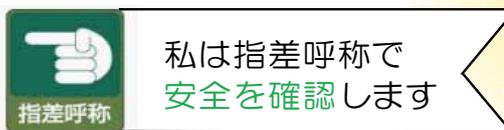
高木 仁美

看護部は看護師長がリスクマネージャーとして、医療安全への取り組みを推進しています。今年度のスローガンは「指差し呼称で安全確認」です。指を差して声に出して「よしっ」とする「指差し呼称」は航空業界や工場、電車の車掌さんなどで見かけることも多いと思います。実施する理由としては、指を差して呼称すると何もしないよりも、間違いが6分の1になるといわれているからです。そのため医療業界でも取り入れる病院が増え、当院でも取り入れ医療安全に役立てたいと考えました。外来や病棟にポスターを掲示しているので、見かけることがあるかと思います。看護師の左うでに「指差し呼称で安全確認」のリボンをつけてアピールします。看護師が注射や伝票に向かって、指を指して「よしっ」という姿をお見せできると思います。そのときには、安全確認をしていると思ってください。看護師ひとりひとりの行動により医療安全の文化を醸成していきます。

このように今年度は「指差し呼称で安全確認」を色々な方法でアピールし、看護部だけではなく病院全体で医療安全に取り組んでいけるよう、リスクマネージャーとして努力していきます。



医療安全管理委員会
看護部リスクマネージャー会議



診療医の紹介

中央病院 ～放射線治療部～

放射線治療部はレジデントも含め6名の医師でいろいろながんへの放射線治療を担当しています。治療装置の進歩で高精度の放射線治療が可能となり、治療効果は大幅に改良され副作用も減らせるようになりました。一方で治療計画や品質管理が複雑になってきており技師、医学物理士、外来看護師との質の高いチーム医療はより重要となっています。よりよい治療を患者さんに提供するため皆で力を合わせて頑張っています。



後列左から：竹花恵一医師、立花弘之医長、富田夏夫医長
前列左から：牧田智誉子医長、古平毅部長、清水亜里紗医師

医療連携室 対応時間延長のご案内

中央病院医療連携室では、地域の医療機関からの問い合わせ等の利便性向上のため、対応時間を2時間延長し、19時までとしました。

月曜日～金曜日 9:00～19:00

電話 052-764-9892 (直通)

FAX 052-764-9897 (24時間稼働しております。)

第10回 高校生向け基礎実験体験講座を開催します

恒例の愛知県がんセンター研究所主催「高校生向け基礎実験体験講座」を今年は8月2日(金)に開催します。今回は「DNAで体質を知ろう～GがAになると赤くなる!～」と題して、頬粘膜細胞からDNAを抽出し、ALDH2遺伝子のサブタイプを遺伝子増幅法(PCR法)で調べる実習を予定しています。

(注) おかげさまで多数の応募をいただき、今年度は既に定員に達したため、応募受付を締め切らせていただきました。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科(精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)、専門外来(禁煙外来・糖尿病内科)
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)
 ※精神腫瘍科及び禁煙外来は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘」駅2番出口から徒歩7分
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのアクセスのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索

がんセンターNEWSは古紙配合再生紙を使用しています。